東北歴史博物館中長期目標

平成３０年度自己評価（３月末現在）

平成３１年３月

東 北 歴 史 博 物 館

取り組みの概要

Ⅰ　目　的

開館以来の博物館を取り巻く環境の変化や平成２３年３月に発生した東日本大震災への対応という課題に取り組むため、平成１１年１０月開館時に策定された運営基本方針を基礎として、中長期に取り組む活動方針と達成目標を平成２５年度からの５年間を長期目標(前期)、平成３０年度からの５年間を長期目標(後期)と位置づけ、より魅力的な博物館を目指して取り組みを進めてきました。

Ⅱ　計画期間

中期目標　平成２５年度～平成２９年度までの５年間
長期目標　平成２５年度～平成３４年度までの１０年間

Ⅲ　取り組み項目

後期の取組目標については、長期的な視点から活動方針等の大きな枠組みは変更しないものの、前期の達成状況と新たな課題を見極めた、以下の９つの項目に１６の活動方針と３１の達成目標を設定しました。
重点目標として「″み″たい博物館情報の創造(はくぶつかん情報創造プロジェクト)と「東日本大震災対応」の２つを柱に据え、関連する個別の達成目標を重点事業と位置づけました。
「″み″たい博物館」をテーマに、県民、その他すべてく人々を対象としたはくぶつかん利用促進を図るためには、展示、教育普及、調査研究、資料整理、広報、来館者サービス、施設・環境整備など、すべての博物館活動を、発信・提供すべき価値と魅力ある情報と位置づけ、人々を魅了し「″み″たい」をくすぐる博物館活動を創造することを目指すものです。

１　常設展示･企画展示
２　教育普及
３　調査研究
４　資料の収集と保管･活用
５　情報の発信
６　県民参加
７　施設の整備･管理
８　組織･人員
９　東日本大震災対応

Ⅳ　結果概要

取り組みの達成度は、全職員で行った職員自己評価の結果を基に、館としての評価を中長期目標達成推進委員会(館長、副館長、部班長で構成)でまとめました。
評価に当たっては、評価基準を４段階とし、「達成」を４、「ほぼ達成」を３、「やや不十分」を２、「不十分」を１としました。
３１項目の「達成目標」のうち、最も評価が高かったものは、「達成目標④」及び「達成目標㉙」で評価点を「４」としております。
また、評価が低かった項目は、「達成目標①」、「達成目標⑮」・「達成目標㉔」の３項目で評価点は「２」で、全体としての総合評価は、「３」としています。

平成30年度東北歴史博物館中長期目標達成自己評価(3月末現在)

評価基準　4：十分達成されている　3：ほぼ達成されている　2：やや不十分である　1：不十分である

1 常設展示・企画展示

○ 常設展示では，「何度も訪れたくなる魅力的な常設展示」を活動方針とし，「総合展示のリニューアル」と「常設展示の充実」に取り組んだ。総合展示室については，リニューアルに向けて災害展示研究との関係を整理し，取り組みの方向性を明確にできたが，その方向性を大きく転換したため基本構想の策定にはいたっていない。これを踏まえ，次年度以降は達成目標等の見直しを実施した上で取り組みを進めたい。テーマ展示室については，新企画や再構成の展示等を採り入れて展開し，内容の充実と来館者の増加を図った。
○ 特別展示では，「利用者の要望をとらえ，時宜を得た魅力的な特別展示」を活動方針とし，過去最大規模の「東大寺と東北」を含む特別展3本を開催した。各展覧会では，展示内容に沿った新たな取り組みも行い，結果として「東大寺と東北」展は過去2番目の観覧者数となり，観覧者総数では昨年，一昨年を大きく上回る81,458人を記録した。また，次年度以降の大型巡回展の誘致にも成功している。
○ 総合展示のリニューアルについては，スキームやスケジュール，さらには事業推進体制や意思決定のプロセスなどについて，あらためて確認するとともに，大型巡回展など県民の学習ニーズに応える企画の継続も重要と考え，引き続き誘致に努めていく。

項目	活動方針	達成目標No.	後期達成目標	重点目標取組	実績	評価	推進委員会の意見
1 常設展示・企画展示	(1) 何度も訪れたくなる常設展示を目指します。	①	総合展示室のリニューアルを目指し基本構想を策定します。	◎	**【企画部企画班】** ○ 「歴史的災害展示研究」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ及び各分野担当者で2016年度に策定した「歴史的災害」を盛り込んだリニューアル基本構想案をベースに，震災復興関連の補助金獲得も踏まえて総合展示室全体のリニューアルを検討してきたが，スキームやスケジュール的に難しいとの判断にいたった。今後は，災害展示を要素として盛り込むものの，「歴史的災害研究」とは切り離して総合展示室リニューアルに向けた取り組みを進めていく。 ○ 総合展示に盛り込む新たな要素である「歴史的災害」については，その動機となった東日本大震災から10年の節目を迎える2020年3月にプレ展示会（企画展）の開催を検討している。この企画展は，東日本大震災からの復興に向けた当館の10年間の取り組みを総括するものでもある。 **【管理部管理班】** ○ 予算編成のスケジュールについては，企画部，学芸部と連携しリニューアル計画の進捗を踏まえて進めていく。総合展示室リニューアルの実現に向けた検討のため，他館の取組や国庫補助事業に該当するものがないか等の情報収集を行っている。	2	災害展示研究と総合展示リニューアルの位置づけを明確化できたが，事業自体の進捗は鈍い。
		②	常設展示の充実を図ります。		**【企画部企画班】** ○ 総合展示室では，文化財課からの移管資料等による新たな考古資料の公開を年度末に予定しており，準備を進めている。また，展示資料・キャプション・展示パネル等に関して1月のメンテナンス期間に要改修箇所の更新を行う予定である。 ○ テーマ展示室では，外部資料を含む新資料活用，構成刷新等により展示内容の充実を図り，WEBでの資料紹介も積極的に行うことを目標としている。特別展「伊達綱村」と連動するかたちで，関連する伊達家の資料を扱った新企画「伊達慶邦巡見図巻」展（9月19日～10月28日・美術），「伊達政宗とその周辺」展（10月30日～12月28日・歴史）を開催し，再構成による「色麻古墳群－県北の大規模群集墳－」展（7月8日～12月28日・考古）も開催した。他の展示でも積極的に新資料を採用しており，今後も新企画の「東北の土偶」展（2月1日～・考古）等を開催する予定である。また，美術分野における展示ではこども向けリーフ等を配布するなど，よりわかりやすい展示解説となるよう配慮している。 ○ 映像展示室では，東北地方の祭や民俗芸能などの無形文化財の記録を上映している。 ○ 今野家住宅では，2019年度の屋根葺き替え工事に伴う公開計画や築250を記念した関連企画を立案し，実施に向けて予算要求も行っている。 ○ その他，エントランスホールでは海上保安本部主催，当館共催によるパネル展「明治維新と海図」（9/19～9/30）・「灯台150年の歴史」（10/23～10/30）を開催し，来館者から好評を得た。「特別展」が終了する12月以降は，WEBでの資料紹介等を積極的に行い，集客を図りたい。	3	新企画や再構成の展示を採り入れて展開し，特別展との連携にも取り組んだ。
	(2) 利用者の要望をとらえ，時宜を得た魅力的な特別展示を目指します。	③	魅力的な展示を実施します。	◎ △	**【企画部企画班】** ○ 各展覧会の観覧者数については，「東大寺と東北－復興を支えた人々の祈り－」展は68,503人，「タイムスリップ！縄文時代」展は8,067人，「伊達綱村」展は4,888人を数えている。 ○ 近年の特別展観覧者総数は，2013年度：23,369人，2014年度：39,287人，2015年度：48,403人，2016年度：40,760人，2017年度：60,367人となっている。今年度は，各展覧会で目標とした観覧者数（東大寺展：80,000人，縄文展：8,500人，綱村展：10,000人）を下回っているものの，「東大寺と東北」展は過去2番目の値を示し，観覧者総数では既に昨年，一昨年を大きく上回る81,458人を記録している。 ○ 本年度開催した各特別展では，大型共同企画・自主企画ともにより魅力的な展示を目指して以下の取り組みを行った。その結果，各展示の観覧者アンケートでは，高い満足度が得られている。 ○「東大寺と東北」展は，復興祈念－東大寺実行委員会を組織して開催した大規模特別展で，充実した展示内容に加えて，これまでにない大規模な広報と関連行事を展開した。 ○「タイムスリップ！縄文時代」展は，小学校高学年をターゲットにした子ども向け自主企画展で，実物資料にイラストや写真，復元模型などを組み合わせたわかりやすい展示，子どもたちが学びを深めるための体験スペースとツールを要所に組み込んだ展示を展開し，補助金（文化庁地域の美術館・博物館を中核とした文化クラスター形成事業）を得て展示解説書も制作した。また，「縄文植物園」として屋外展示にも取り組んだ。 ○「伊達綱村」展は，仙台藩四代藩主綱村の没後300年を記念して政治・経済・文化の各方面にわたる事績を顕彰した自主企画展で，寺社との協働により掘り起こした地域資料の活用，地域との深い関わりを特集する展示を試みた。 ○ 2019年度特別展については開催準備を進めており，その翌年度の特別展についても開催企画を決定し，準備を開始した。	3	大規模特別展「東大寺と東北」では過去2番目の観覧者数を記録し，全体の観覧者数も増加した。集客に苦戦した展示もあったが，観覧者の満足度は高かった。
		④	外部の巡回展を積極的に誘致し，幅広い利用者の来館を推進します。		**【企画部企画班】** ○ マスコミ・プロモーター提案あるいは共同企画による大型巡回展等の誘致を継続して積極的に図っている。来年度は，河北新報社からの提案で東京藝術大学・山陰中央新報社が企画した巡回展「最先端技術でよみがえるシルクロード」を河北新報社，東北放送とのタイアップにより春季に開催する予定である。また，高崎市美術館・パナソニック汐留ミュージアムとの共同企画で「モダンデザインが結ぶ暮らしの夢」展を夏季に開催予定している。 それ以降の大規模展覧会の誘致・開催についても現在，多面的な働きかけを行っている最中である。	4	大規模展覧会を開催・運営して来館者数の増加に繋げており，次年度以降の大型巡回展の誘致にも成功している。

2 教育普及

○ 教育普及事業では，「多様で親しみやすく，参加したくなる教育普及事業」を活動方針とし，各種講座・教室や体験イベント等に新企画を盛り込んで多様な事業展開を試みた。結果として，多くの参加を得ており，参加者の満足度も高かった。また，過去の各種教育普及事業についてデータを整理するとともに，アンケート調査を実施して継続的なニーズの把握と事業改善に取り組んでいる。
○ 学校との連携面では，「学校における博物館の効果的活用」を活動方針とし，体験授業や出前・館内授業等の学習支援を積極的に展開して学校団体の館利用促進に努めた。また，更なる館活用の促進を目指し，新企画を含めたプログラムの再検討や学校団体との連携のあり方，運営体制の見直しも進めている。
○ 今後の教育普及事業については，開館20周年を迎える新年度を一つの好機と捉え，事業の総括や改善について様々な視点から議論し，事業の効果的効率的な運営を図っていく。

項目	活動方針	達成目標No.	後期達成目標	重点目標取組	実績	評価	推進委員会の意見
2 教育普及	(1) 多様で親しみやすく，参加したくなる教育普及事業を目指します。	⑤	各種講座・教室や体験イベントの開催に際し，利用者のニーズや興味関心をつかみながら，質的向上を図り実施します。	◎ △	**【企画部企画班】** ○ 過去5年間の各種教育普及事業についてデータを整理するとともに，本年度事業についてアンケートを実施し，ニーズの把握と事業改善に取り組んでいる。 ○ 体験教室やイベント，多賀城巡り等では，新たなプログラムの導入やプログラム内容の更なる質的向上を図った。 ○ 特別展（「東大寺と東北」展・タイムスリップ！縄文時代」展）関連企画として，砂金採り体験・写経体験・体験教室「子ども縄文時代研究」（3回）・体験イベント「縄文時代の道具に挑戦！」（3回）などの教育普及事業を実施した。 ［講座］ ○館長講座は，館長が長年取り組んできた研究などを紹介する連続講座で，今年度は10回実施し，468名の参加があった。参加者の満足度は高かった。 ○史料講読講座（3回）は，参加者は156名であった。 ○古文書講座入門編（3回）は，参加者は169名であった。 ○その他，古文書講座中級編（4回），れきはく講座（7回），民俗芸能講座（3回）については現在開催中で，多くの参加者を得ている。 ［体験教室］ ○夏の体験教室では，親しみやすく参加したくなるような教室の展開を目指し「古代のハンコをつくろう」・「鹿角のペンダント作り」・「和とじのオリジナルノートをつくろう」・「縄文人は何を食べたの？」を実施した。後3回は新企画で，毎回定員以上の参加があり，全体として満足度も高かった。 ○冬の体験教室は，人気の高い「とんぼ玉をつくろう」と新企画の「組紐を作ろう」を実施した。こちらも定員を上回る参加希望があり，参加者の満足度も高かった。 ［体験イベント］ ○秋の体験イベントを実施し，登録者数470名，プログラム総参加者数1,649名であった。冬も開催予定であり，400～500名の登録者数を目標としている。 ○体験イベントでは，更なる内容の充実と参加者数の増加を目指し，魅力的な新規プログラムの開発と広報戦略の見直しに取り組んでいる。 ［多賀城巡り］ ○今年度はハイキング形式の番外編（3回）も含め12回開催し，終了している。計172名（昨年度は14回で計178名）の参加があり，特に番外編の人気が高かった。 ［民話事業］ ○今野家住宅において，利府民話の会と多賀城民話の会による「民話を聞く会」を6回開催し，計206名の参加者があった。 ○今野家住宅を活用して小学生に民話語り手体験をしてもらう事業を展開した。事前案内会にあたる「民話にふれよう」（講師と過去の事業体験者が民話を披露）では93名の来場者があり，計4回で構成された体験プログラムには小学生11名の参加があった。このプログラム参加者が覚えた民話を披露する最終回「民話を語ろう」には80名の来場者があった。	3	新企画も盛り込んだ多様な事業展開で多くの参加を得ており，参加者の満足度も高かった。
	(2) 学校が博物館を効果的に活用できることを目指します。	⑥	学校利用に対する学習支援の充実を図ります。		**【企画部企画班・管理部情報サービス班】** ○ 既存の学習シートの改善に取り組み，より教科書に対応した学習シートの開発に向けて検討を進めている。 ○ 学校団体との連携強化，学校団体の館利用促進を目指し，以下の企画を実施した。各企画の学校数は例年並みであるが，参加者数は増加している。更なる連携と館活用の促進を図るため，出前授業や団体利用プログラム等の課題について企画・情報サービス班内で協議し，新規企画を含めたプログラムの再検討や運営体制の見直しを進めている。 ［出前授業］ ○仙台市内小学校1校（40名）で，「昔の遊び」授業を実施した。 ○仙台市内小学校1校（40名）で，「昔のくらし」授業を実施した。 ○福島県内のイベントで，「発掘体験」授業を実施した（主な対象は未就学児）。 ［館内授業］（展示解説除く） ○多賀城市内中学校1校（161名）を対象に，地域学習の授業を実施した。 ［体験授業］ ○多賀城市内小学校1校（280名），仙台市内小学校1校（122名）を対象に，「タイムスリップ！縄文時代」展の展示体験前授業を実施した。 ○山形県内小学校1校（12名）・美里町内小学校1校（26名）を対象に，「勾玉づくり体験」授業を実施した。 ［職場体験］ ○学校からの依頼に応じ，10・11月に中学校4校の職場体験を実施した。実施にあたっては見学や解説，体験活動をバランス良く配分した内容となるよう留意した。	3	体験授業や出前・館内授業等の学習支援を実施し，学校団体の館利用促進に努めた。また，更なる連携と館活用促進を目指し，新企画を含めたプログラムの再検討や運営体制の見直しも進めている。

3 調査研究

○ 調査研究事業は博物館活動の基盤という意識を館員で共有しながら，高品質な事業を推進するとともに，外部研究機関との連携や国の予算の積極的な活用など事業の充実に努めている。
○ 今後も，連携や獲得それ自体が「目的化」しないよう，より一層注意を払いながら，博物館活動や県民に対してその成果や情報を還元していく。

項目	活動方針	達成目標No.	後期達成目標	重点目標取組	実績	評価	推進委員会の意見
3 調査・研究	(1) 東北の歴史・文化等に関する調査・研究を推進し，その成果を積極的な公開・普及活動の基盤とします。	⑦	研究テーマや目的を明確化し，成果を積極的に公開します。		**【学芸部学芸班】** ○ 研究分野ごとに調査研究・成果公開の内容と予定を明確にした事業計画（本年度計画及び5ヶ年度計画）を年度当初に策定し，4月の館員会議（全体会議）や定例開催の学芸会議で提示して館内でそれらの情報を共有している。現在，事業はいずれの分野も概ね計画通りに進捗している。さらに，必要に応じて随時，成果と課題に関する議論と総括を実施している。これらの成果は，研究紀要等の出版物，県民を対象とした「れきはく講座」等により公開を予定するなど，本年度の博物館事業に反映される予定であり，年度末に向けてさらなる上積みを図りながら次年度以降の研究計画にも活用されるよう計画を進めている。なお，主な成果だけでも研究紀要は7件の論文・報告を予定し，展示は特別展3件とテーマ展示12件（予定を含む），各種講座は「れきはく講座」7件（同左）を数え，この他にも随時，同種業務を実施しており，1人あたり2件以上の公開と地域への成果還元を達成する予定である。	3	調査・研究事業は概ね計画通り進捗しているが，さらなる充実を図り成果を積極的に公表していく。
		⑧	総合展示室リニューアルをはじめとする公開や教育普及，博物館運営等，博物館学的な研究をさらに推進します。		**【学芸部学芸班】** ○ 総合展示リニューアルに向けて，2014年度から研究分野横断型の「歴史的災害展示研究」プロジェクトを推進し，さらに2017年度からの3ヶ年度にわたり科学研究費（基盤C「東日本大震災を契機とする歴史災害展示の構築に係る研究」）を獲得したことにより，東日本大震災の経験に立脚しながら，歴史的に繰り返されてきた災害の実態を研究し，防災意識の向上にも配慮した新たな展示構成の構築とその具体化を目指している。現在，資料調査と研究会の開催を各1回開催している。 ○ 博物館学研究について，事業計画（本年度計画及び5ヶ年度計画）を年度当初に策定し，その計画に基づき，資料保存と収蔵環境のさらなる向上を目指して「IPM研修」へ，博物館事業や運営の充実のため「日本博物館協会研修会」など合計5件に職員を派遣しており，これらの成果は学芸会議などで報告・協議され，館内で情報が共有されている。 上記については，年度末に向けて，さらなる上積みを図り，研究を推進する予定である。	3	歴史的災害展示研究は概ね計画通り進捗している。今後も科研費を有効活用して研究の充実を図るほか，博物館学的研究を推進し，成果を積極的に還元していく。
	(2) 他の博物館・研究機関等との連携を深め，調査・研究活動の質の向上を目指します。	⑨	調査・研究予算確保のため，外部資金の導入を図ります。また，他の博物館や研究機関・団体と連携協力して行う事業を展開します。	△	**【学芸部学芸班】** ○ 調査研究事業に充当する外部資金として，科学研究費1件（基盤研究C「被災物の活用のための劣化特性と保存法の解明」）と一般財団法人住環境財団研究助成1件（「絵画資料を用いた中近世における窓・建具の流通に関する研究」）の計2件を新たに獲得した。採択済の科学研究費2件についても引き続き活用している。さらに，次年度の科学研究費を獲得するため，本年度も保存科学分野及び美術工芸分野から新たに2件の応募を行った。また，広く博物館活動全体に充当するため，「被災ミュージアム再興事業国庫補助金」を獲得し被災資料の保全などを実施するほか，宮城県地域文化遺産復興プロジェクト実行委員会が実施する国庫補助事業「しおがま・まつしま文化財めぐり活性化事業」の事業主体者としてその事業と予算を文化財調査及び普及活動に活用している。 ○ 外部機関との連携協力では，協定を締結した3件（継続1件，今年度新規2件）を始めとして，国や地方公共団体を始めとする公共機関，県内外の博物館施設，大学，民間などと連携して調査研究を積極的に推進している。それらの成果は，展示や普及事業など多岐に亘る当館の博物館事業に活用され，県民へ還元されている。さらに，次年度も他機関の研究への協力者として新たに2件の応募を既に行っており，これにより一層の研究の推進と連携協力を図っていく。また，博物館実習では19名の実習生を，東北大学との連携大学院では2名の大学生をそれぞれ受け入れ，人材育成に努めている。	3	科研費等の外部資金は概ね計画通り確保できている。今後も積極的に獲得に努め研究を推進するとともに，他機関との連携強化に努め，人材育成や研究の推進を図っていく。

4 資料の収集と保管・活用

○ 資料受納，収蔵品管理，収蔵環境管理，資料貸与，情報公開など多岐にわたる業務を概ね適正に推進している。
○ 浮島収蔵庫の老朽化への対応やデータベース充実など環境整備等の方針策定が課題となることから，引き続き必要性の理解を求め，事業のさらなる推進を目指していく。

項目	活動方針	達成目標No.	後期達成目標	重点目標取組	実績	評価	推進委員会の意見
4 資料の収集と保管・活用	(1) 東北の歴史・文化等に係わる資料を系統的に収集し，その積極的活用を図ります。 また，収集した資料の特質に応じた適正な保存管理策を講じ，後世へ継承します。	⑩	研究分野ごとの資料収集方針に基づき，計画的な資料収集を行います。		**【学芸部学芸班】** ○ 研究分野ごとに収集方針を立案し，それに従って情報収集や調査研究を進め，寄贈・寄託に至った資料は資料取扱要項など所定の手続きを厳正に履行しながら受納を行っている。現在，「戦時債券」1件13点を始めとする寄贈，文化財課から移管された考古資料695箱の受納などの事務処理が完了しており，他に美術工芸資料1件2点などについて年度末に向けて受納手続きを進めている。 ○ 新たな収集予算確保とその活用について，関係課などと引き続き協議を進めている。これにより，資料収集事業に対して新たな財源を確保するよう努めているところである。また，財源確保など新たな枠組みによる資料収集の体制を整える過程で，中長期的な資料収集計画を取りまとめる予定である。	3	資料収集方針及び資料取扱要領に基づき，適切に情報収集，寄贈・寄託品の受納を行っている。資料収集にかかる財源については引き続き確保に努めていく。
		⑪	収蔵環境を整備し，より安定的な資料保全を図ります。	◎ △	**【学芸部学芸班】** ○ 本館及び浮島の両収蔵庫について，定期環境調査を毎月実施するとともに，7月と12月の2回に亘り全館全室を対象とした委託環境調査を行い，収蔵環境の維持・改善を進めている。さらに，1月には学芸職員による収蔵庫の定期清掃を実施し，より良い収蔵環境を構築した。 ○ 経年劣化が甚大かつ保管容量が逼迫する浮島収蔵庫については，部分的な不具合などの応急処置を施すとともに，今後の収蔵庫のあり方，現在収蔵される資料と今後の収蔵予定資料の取り扱いなど，文化財課と協議を進めている。また，文化財課が懸案事項に掲げ，教育庁内での協議も進められている。なお，この間もより一層の環境改善を行い，収蔵場所の確保に努めている。また，環境改善には，科学研究費（基盤C「文化財収蔵のための緊急時における非文化財収蔵施設の活用調査と低コスト運営法の開発」）の成果が活用されている。	3	収蔵環境は概ね適切に維持されている。今後は，収蔵品をより一層適切に管理するため，とくに浮島収蔵庫の整備について文化財課と連携を図り，早期解決に努めていく。
		⑫	収蔵資料のデータベースをさらに充実させ，インターネット等を活用して収蔵資料の情報公開を推進します。また，実物資料及び写真資料，図書資料の貸出・閲覧・撮影等にも適切に対応します。		**【学芸部学芸班】** ○ 本年度は，データベースのさらなる充実を目指して登録作業を精力的に推進している。現在，画像資料686点と図書資料1,344点を新規登録している。登録作業は，年度末に向けてさらなる上積みを図り，次年度以降に予定される情報公開に活用される予定である。 ○ 実物資料は，仙台藩大肝煎吉田家文書などの資料目録の作成も進めており，完了し次第，ホームページ上で資料目録を公開する予定である。資料の利用については，画像の貸与が現時点で71件277点を数えることを始めとして，多くの需要に応じて業務を適正かつ円滑に推進している。	3	事業は概ね計画通りに進捗しており，今後はデータベースの充実及び画像利用への対応について，引き続き円滑な事業実施に努めていく。

5 情報の発信

○ 広報活動については，催事テーマ等に応じて広報先や方法等検討して効率的・効果的な情報発信に努めた。特に，特別展「東大寺と東北」においては，多賀城市や関係機関と連携・協力して，きめ細かな広報活動を行い，多くの方々にご来館いただいた。
○ 他館との連携についても，互いに催事の広報や割引を実施したほか，特別展の協力企業と合同でスタンプラリーを実施した。
○ ホームページでは，特別展の関連行事の様子を写真で紹介しながら次の催事のお知らせを行い，博物館に関心を持ってもらえるような情報発信に努めた。
○ ロゴについては開館20周年に向けて決定する予定で準備を進めているが，制定までのスケジュールが遅れており今後の進行を加速させて進めていく必要がある。

項目	活動方針	達成目標No.	後期達成目標	重点目標取組	実績	評価	推進委員会の意見
5 情報の発信	(1) 当博物館の存在や活動・事業の内容等を積極的にお知らせします。	⑬	わかりやすいアクセス情報を提供します。		**【管理部情報サービス班】** ○ 特別展開催期間中は多賀城市と塩竈警察署の許可を得て，市内に大きな表示で分かりやすい案内表示を設置した。(常設用62ヶ所・特別展用11ヶ所) ○ 電柱広告の案内看板設置を継続し，道路形状の変更により見えづらくなった看板の設置位置変更を行った。 ○ ナビゲーションシステムに対応した適切な所在地情報に対応させるため，地図データ作成業者と修正の打ち合わせを行った。	3	車で来館する観覧者のため，分かりやすい位置に案内表示を設置した。
		⑭	多賀城市及び近隣市町との連携を強化します。	◎	**【管理部情報サービス班】** ○ 近隣市町(仙台市，多賀城市，塩竈市，七ヶ浜町，利府町，松島町)へ当館催事情報等の掲載依頼を定期的，継続的に行った。 ○ 特別展「東大寺と東北」を多賀城市とともに開催し，多賀城市が主催する特別展関連イベントへの協力を行った。 ○ 多賀城市主催の「あやめ祭り」の後援をしたほか，「あやめ祭り」のライトアップイベントに合わせて，ナイトミュージアムを行ったほか，光のアートイベント「幸せ色の多賀城」や，「史都多賀城万葉まつり」に共催として関わり，会場運営や施設使用等の協力を行った。 ○ 東大寺展開催期間から，南側ピロティに机・椅子を置き来館者が休憩できるスペースを設け，「"伊達"な文化」魅力発信推進事業実行委員会や多賀城市の作成した観光案内パンフレットやポスターを置き，近隣市町の観光情報を発信した。	3	多賀城市との共催や後援の催事に，互いに協力・連携して事業運営にあたった。
		⑮	館のロゴを制定し，館のシンボルとして活用します。		**【管理部情報サービス班】** ○ 東北地方の基幹的な歴史系博物館として，どのようなロゴがふさわしいか，制定後の利活用と併せて，その制定方法と制定時期，スケジュールについて検討する。第1回の検討会を12月中旬に開催した。	2	ロゴの制定方法とスケジュールについて検討したが，予定より遅れている。
		⑯	来館者の増加につながるような実効力のある効率的な広報を展開します。	◎ △	**【管理部情報サービス班】** ○ 特別展については，通常の広報に加え展示毎にメインとなる客層に直接アピールする広報を工夫した。小学生向けの特別展については，通常のチラシ配布の他に，県内の小学校高学年(5，6年生)の児童全員にチラシを配布した。 ○ 講座，イベント等については，目的・内容毎に発送先や部数，発送方法等を精査し，効果的な広報が出来るよう工夫した。小学生対象のイベントは，近隣市町の小学校にチラシを持参し情報提供を行った。 ○ 過去に利用していたが，来館しなくなった県外小中学校を確認し，旅行業者等を通じて来年度の催事情報の提供と来館の働きかけを行っている。テーマ展示や催事等の広報については，通常の手段に加え展示資料に縁のある市町村広報担当者へ直接情報提供を行った。 ○ 「東北文化の日」ガイドブック等での施設紹介を行った。県教育委員会のホームページ上でも特別展の広報を行い，多くの人の目に触れるようにした。 ○ 県庁及び教育事務所の区分箱の活用，宅配便やレターパックの活用のほか，新たに仙台市教育委員会の区分箱を使用し，経済的・効率的な広報が出来た。 ○ 周辺地域の文化財や観光情報等もあわせて発信するスペースとして活用する南側ピロティを東大寺展開催期間は活用したが，これ以降は十分な活用が出来ていない状況にある。	3	特別展やイベントの広報については，来館者の増加につながるよう広報先の選定や広報手段を検討し，効率的で経済的な情報発信を行った。
		⑰	他館と連携した広報を行うとともに，館内掲示物を充実させます。		**【管理部情報サービス班】** ○ 宮城県美術館と連携して催事情報提供を行っており，相互割引，広報を今後も継続していく。 ○ 東大寺展の誘客イベントとして，当館・TFUギャラリーミニモリ・三井アウトレットパーク仙台港と合同でスタンプラリーを実施した。当館の認知にもつながった。 ○ イベント開催時には，エントランスホール入り口とインフォメーション前に掲示板を出して，来館者にわかりやすく目にとまるよう適宜工夫して設置している。 ○ 3階情報コーナー等の館内掲示物は，掲示期限を確認し，期限が過ぎたものは入れ替えを行った。	3	美術館と連携し相互に広報を行った。 特別展の誘客イベントとしてスタンプラリーを実施した。
	(2) インターネットを通じて情報の速やかで効果的，魅力的な発信に努めます。	⑱	ホームページを充実します。		**【管理部情報サービス班】** ○ 展示や催事，館からのお知らせ等，きめ細かな情報掲載をした。また，画像を多く取り入れ視覚的にわかりやすいものなるようにした。特に，特別展の情報は時系列に掲載し，取り組みがわかるようにした。 ○ イベント等の開催情報のホームページ掲載時期が遅くなってしまったものが，何件があった。	3	画像を多く取り入れ視覚的に分かりやすいものになるようにした。
		⑲	WEBや電子メールを活用し事業を促進します。		**【管理部情報サービス班】** ○ 県教育委員会のホームページ，県広報課のフェイスブックを使った広報を実施した。 ○ 全国にイベント情報を提供しているインターネットサービスを利用し，特別展，催事，イベント情報を提供した。 ○ 職員ポータルの掲示板機能を利用し，特別展関連行事をイベント案内として情報提供した。 ○ ツイッターの導入については引き続き検討していく。	3	県教委のホームページや，県広報課のフェイスブックなどを使った広報を行った。

6 県民参加

○ 来館者から寄せられた要望の中で，対応が可能なものから順次取り組んできており，利用者の声が反映される博物館運営に努めた。イベントに必要な大学生ボランティアの募集をするため，大学での説明会を開催し，必要なボランティア協力を得ることが出来た。また，参加してくれた大学生ボランティアには当館の教育普及事業への理解を深めてもらうことも出来た。
○ 「友の会」の活動は活発に行われており，当館としても各種企画の支援を行っている。今後も自立に向けた体制整備のため，役員と意見交換や情報共有のための打ち合わせを継続して行っていく。
○ 来館者のニーズの把握に努め，「体験イベント」・「民話を聞く会」などの催事事業やキャンパスメンバーズ制度の実施など，様々な博物館活動を通して多くの県民が参加できる取り組みを行った。

項目	活動方針	達成目標No.	後期達成目標	重点目標取組	実績	評価	推進委員会の意見
6 県民参加	(1) 利用者のニーズが博物館の運営に十分に反映されるよう努めます。	⑳	来館者のニーズを把握し，そのニーズに対応します。	◎	**【管理部情報サービス班】** ○ 特別展アンケートの回収率を上げるため一昨年度から実施した次回特別展招待券プレゼント（抽選）の特典付加を継続実施した。 ○ 特別展のアンケート等で寄せられた要望については，展示担当に情報提供を行い，展示期間中に対応可能なものは速やかに対応し，課題として残ったものは次回以降の展示に反映できるようにした。 ○ 学校団体（小・中学校）へのアンケートを継続し，感想や要望等の分析結果を職員や解説員と共有した。 ○ アンケート集計処理をOCRにより行い簡便な集計方法を導入した。	3	より多くのアンケート回答を得られるよう工夫し，要望に対し速やかな対応を行った。
	(2) 博物館への県民参加を，積極的に推進します。	㉑	館内ボランティア業務を円滑に運営します。		**【企画部企画班】** ○ 博物館ボランティアについては，メンバーとの意見交換をもとに運営面での改善を実施し，業務についての共通理解を深めた。また，世話人会の運営，研修会の企画・運営，研修旅行へ同行するかたちでの他館ボランティア業務の調査，共同での行事開催準備等を行い，メンバーとの友好的な協力体制の構築に努めている。 ○ 大学生ボランティア（臨時）については，県内大学2校にて募集説明会を実施するとともに，1校のボランティア支援課に赴き，体験イベント等における大学生ボランティア参加に対する協力を依頼した。体験イベント等に参加してくれた大学生ボランティアに対しては，事業の趣旨や内容等について丁寧な説明を行い，当館の教育普及事業への理解を深めてもらった。 ○ 特別展「東大寺と東北」の関連行事（砂金採り体験）では，大学生ボランティアを募集し，博物館活動への参加の場を提供した。	3	ボランティア業務について運営面での改善を実施し，メンバーとの協力体制の構築に努めたほか，大学での説明会等を実施してイベントに必要な人員を確保した。
		㉒	博物館友の会の活動に対し支援をしながら，自立した会の体制整備に向けて助言，提案をします。		**【企画部企画班】** ○ 各特別展開催に際し，前日の内覧会を共催した。 ○ 事務局として会の企画・運営，会誌（「友の会だより」）の刊行等について支援を行っている。 **【学芸部学芸班】** ○ 友の会主催の各種企画（歴史講座，歴史探訪会，体験教室，会員交流会，バックヤードツアーなど）の立案に際して助言を行い，実施に際して連絡調整や進行，内容に応じて講師を務めるなどして，様々な支援や協力を行っている。 **【管理部情報サービス班】** ○ 友の会の各種企画（歴史講座，歴史探訪会，体験教室，バックヤードツアーなど）の立案に助言し，実施においては連絡調整や進行，企画によっては講師としてなど，様々な形で支援・協力している。また，サポーター制度により登録した会員が，友の会の事務局業務に協力してもらうことで，今後，自立した会の体制整備が出来るように支援した。 ○会員数は500件796会員（12月1日現在）　昨年比14件27会員増	3	各種企画の立案・企画・調整を支援した。今後も一層の質的向上を目指し，支援や協力に努めていく。
		㉓	大学等学校単位での利用を促進します。		**【管理部情報サービス班】** ○ 大学等の要望を聞き取りながら，参加を希望する大学等が参加しやすい制度の運用を行った。 ○ 新たに設けたキャンパスメンバー制度に6校の大学が入会し，サービスを利用した。	3	今後さらに制度の周知，広報に努め利用大学の増加を図っていく。

7 施設の整備・管理

○ 展示室のLED照明改修により，来館者に配慮したチラツキの少ない照明と紫外線や熱による文化財資料へのダメージ低減を図るとともに，省エネやCO2削減など環境やコスト削減に配慮した施設整備に努めた。
○ 観覧者の安全に配慮し，老朽化した自動火災報知設備の更新と適正な温湿度環境を維持するための空調配管改修を行った。
○ 情報システムに関しては，関係部署との協議に早い段階から取り組んだ結果，新システムの開発の準備を進めることができた。

項目	活動方針	達成目標No.	後期達成目標	重点目標取組	実績	評価	推進委員会の意見
7 施設の整備・管理	(1) 利用者が利用しやすい施設・設備環境に向けて検証と改善を行います。	㉔	施設設備整備検討委員会で現状を再検証し，障害者や海外の方を含めた全ての来館者の安全と文化財の保全管理に配慮した施設設備を整備します。	◎ △	**【管理部管理班】** ○ 関係機関と随時協議し，来館者の安全と文化財保全管理のため，老朽化した施設設備の整備を年次計画に基づき実施し，年度内に完了する予定である。 ○自動火災報知器更新改修工事（第2期） ○総合展示室等照明LED灯改修工事 ○空調配管改修工事 ○ 県有建築物保全点検において，危険防止の観点から早急な対策が必要とされたことに基づいて，今年度中に高圧気中開閉器交換工事を施工する予定である。 ○ 各部ごとの整備要望等を整理しながら，次年度以降の施設設備の整備計画見直しの準備を進めている。	2	観覧者の安全と文化財資料の保存管理に配慮した改修に取り組んだが，一部の工事が予定より遅れた。今後は，適切な計画管理を行う必要がある。
		㉕	情報システムを更新します。	△	**【管理部管理班】** ○ 情報システムのセキュリティー向上とシステムの安定性を考慮した更新がスムーズに行えるよう，関係各課と事前協議を重ね，予算編成前から取り組んだ結果，2019年度当初予算において，情報システム更新のための予算を組み入れることができた。 **【管理部情報サービス】** ○ ホームページの多言語化やSNS機能の整備には至らなかった。	3	ハードウェアの老朽化とセキュリティー向上の対策として，情報システム更新のための準備が進んだ。
	(2) 災害時に博物館として，また県の施設として機能できるようにします。	㉖	災害時の施設利用・管理について取扱いを整備します。	△	**【管理部管理班】** ○ 大規模災害時の災害応急対策を検討した。 ○次年度に向けて，災害発生時等の対応を体系化した「危機管理マニュアル」を作成している。 ○災害発生時，帰宅困難な来館者，及び館職員への対応として，非常食・飲料水等の備蓄品対応を検討している。 ○ 大規模災害時に博物館を初動活動の拠点としたい他所属との調整を行った。 ○仙台保健福祉事務所との協定に基づいた，大規模災害発生時の初動活動を行うための執務室と物品保管場所の選定を進めている。 ○関係地区消防本部との協定に向けた検討を進めている。	3	来館者のより一層の安全を図るため，防災体制や避難体制の強化・整備が進んでいる。

8 組織・人員

○ 各部署や職員の役割分担を尊重するのは当然のことながら，それとともに，総合展示リニューアル，施設の維持管理，イベントなど大規模事業に対して職員一丸となって取り組むことができた。
○ 部班業務の相互理解とイベント等の情報を的確に把握することにより，問題点の洗い出しと課題解決の検討を進めている。
○ 組織として効果的，効率的な運営をするための協力体制を今後も図る必要がある。

項目	活動方針	達成目標No.	後期達成目標	重点目標取組	実績	評価	推進委員会の意見
8 組織・人員	(1) 組織の効果的，効率的な事業運営が確保される体制を構築します。	㉗	部班の所管を検証し，必要な見直しを行います。		**【管理部管理班】** ○ 部班の所管を踏まえた上で，組織運営上の課題や専門分野ごとの職員構成を考慮しながら，適正な人員配置に努めている。	3	今後も，博物館活動を様々な視点から管理運営していくため，十分な知識・経験を有うする人員の配置と若手職員の育成に努めていく。
		㉘	効率的な事業運営が確保されるよう部班間の協力体制の調整を行います。		**【管理部管理班】** ○ 各事務事業の実施時期・内容等についての共通理解を図り，円滑で迅速な事業運営が行えるよう部班間の連携に努めた。 ○ 展示や催事等において，来館者の観覧状況を適切に把握し，案内業務や駐車場整理誘導業務など状況に応じ，部班間で弾力的な要員配置を行った。	3	今後も，部・班間の連携協力に重点を置きながら，さらに効率的に組織運営を図っていく。

9 東日本大震災対応

○ 東日本大震災への対応と復興は本県の最重要課題の一つであることを常に念頭に置き，概ね計画通り業務の推進に当たっている。今後も，全職員各々の担当する業務がこの目的に合致したものとなるよう注意を払いながら業務を推進する。

項目	活動方針	達成目標No.	後期達成目標	重点目標取組	実績	評価	推進委員会の意見
9 東日本大震災対応	(1) 震災復興に貢献する博物館活動を積極的に展開します。なかでも県内の被災文化財の保全活動をリードし，活動全体を推進します。	㉙	県立博物館として，県内の文化財の保全活動をリードし，活動全体を推進します。併せて被災文化財の修復や保存に関わる技術的な研究も進めます。		**【学芸部学芸班】** ○ 県立の博物館施設として，平成28年度末に解散した「宮城県被災文化財等保全連絡会議」の元代表幹事・事務局館として，県内市町村が直面する保全活動を主導し推進している。南三陸町や石巻市ほかの被災文化財について，「被災ミュージアム再興事業国庫補助金」を獲得し，クリーニング及び安定化処置など，保管施設について環境調査，管理支援及び資料の活用支援などを，それぞれ継続して実施している。とくに，山元町合戦原遺跡の線刻壁画資料について，一連の保存処理，安定化から公開に至る全ての過程で技術支援と活用支援を推進した。また，今後の保全全般活動のあり方，情報共有及び支援体制についても検討を進めている。 ○ 震災復興発掘調査について，本年度も引き続き文化財課へ職員1名を派遣するとともに，調査による出土資料の保存処置を実施し，事業推進及び震災復興に協力を行っている。 ○ 被災文化財の修復や保存について，2件の科学研究費（基盤C「文化財収蔵のための緊急時における非文化財収蔵施設の活用調査と低コスト運営法の開発」及び基盤研究C「被災物の活用のための劣化特性と保存法の解明」）を活用し，津波被害という未曾有の事例に対応する技術研究を進めている。	4	事業は着実に推進されている。とくに被災文化財及び復興発掘調査出土資料の保存処置等への支援は円滑に実施されており，今後も本事業の安定的な継続に努めていく。
	(2) 災害に関する調査・研究を進め，常設展示をはじめとする公開・普及事業での活用に取り組みます。	㉚	災害と復興の歴史及び災害に関する資料の調査・研究を推進します。	◎ △	**【学芸部学芸班】** ○ 平成26年度から研究分野横断型の「歴史的災害展示研究」プロジェクトを推進し，さらに2017年度からの3ヶ年度にわたり科学研究費（基盤C「東日本大震災を契機とする歴史災害展示の構築に係る研究」）を獲得したことにより，東日本大震災の経験に立脚しながら，歴史的に繰り返されてきた災害の実態を研究している。現在，「雲仙岳災害記念館」の展示内容及び手法の調査を行うなど資料調査を重ねるとともに，研究会を2回開催している。調査と研究会については，年度末に向けて，さらなる上積みを図り，研究を推進する予定である。	3	調査・研究は概ね順調に進捗しており，今後も科研費を有効に活用し，被災文化財の補修等に係る技術的研究の推進していく。
		㉛	復興祈念事業を展開し，震災から立ち上がろうとする県民の活力増進の一助とします。また，防災教育の拠点として災害展示の公開を目指した整備を進めます。	◎	**【企画部企画班】** ○ 東大寺の復興の歴史が，東北復興の“今”と“未来”を照らす道灯りとなり，大人はもとより，何より子ども達が夢と希望と誇りを持つことのできる豊かな東北を築くことを願って，東日本大震災復興祈念特別展「東大寺と東北－復興を支えた人々の祈り－」を開催した。また，会期中に募金箱を設置し，多くの観覧者から募金をいただき，この募金については実行委員会として「東日本大震災みやぎこども育英募金」に寄付した。 **【学芸部学芸班】** ○ 復興祈念事業として，2020年度春に特別展「復興発掘調査のあゆみ（仮題）」の開催を予定しており，現在，開催に向けて準備を進めている。展示では，東日本大震災の被災状況から復興までのあゆみをパネルで紹介するほか，地域の宝である遺跡からの出土品を公開する予定である。併せて，シンポジウムを開催し，早期復興への取り組み等も紹介する予定である。この事業により，地域の歴史を振り返り，地域に対する誇りを体感することで，県民の一層の活力増進を図るものである。 ○ 防災教育の拠点として災害展示の公開を目指した整備を進めるため，2014年度から研究分野横断型の「歴史的災害展示研究」プロジェクトを推進し，さらに2017年度からの3ヶ年度にわたり科学研究費（基盤C「東日本大震災を契機とする歴史災害展示の構築に係る研究」）を獲得したことにより，東日本大震災の経験に立脚しながら，歴史的に繰り返されてきた災害の実態を研究している。現在，「雲仙岳災害記念館」の展示内容及び手法の調査を行うなど資料調査を重ねるとともに，研究会を2回開催している。調査と研究会については，年度末に向けて，さらなる上積みを図り，研究を推進する予定である。	3	特別展の準備及び災害展示は概ね着実に進んでいる。この成果を，震災から立ち上がろうとする県民の活力増進の一助となるよう努めていく。

		評価	推進委員会の意見
総合評価	○ 常設展示・企画展示事業では，展示内容の充実を図り，関連企画を盛り込んでチラシやWEB等での積極的な情報発信に努めた。また，WEBでの展示資料紹介やマスメディアへの情報発信の働き掛けにも取り組んだ。 ○ 教育普及事業では，各事業のメインターゲットを明確にし，その部分を重点的にチラシ配布等の情報発信を展開した。 ○ 調査研究事業では，計画に従い事業を推進でき，また館外との連携協力や外部資金の獲得についても成果を挙げ，その成果を様々な機会を捉えて発信することができた。今後は,調査研究事業及び外部研究者との連携をさらに充実させ，より一層の情報発信を行っていく。 ○ 資料の収集と保管・活用では，適正に業務を推進し，情報を館外の利用に供した。今後も資料収集とデータベース作成を計画的に実施し，積極的な情報公開,活用に努めていく。 ○ 広報では，ホームページで「特別展」の関連情報を速やかに公開出来なかった部分が反省点であるが，特別展のイベント等を写真で時系列に紹介するなど，閲覧者に興味を持ってもらえるような取組を続けた。 ○ 施設整備では，来館者満足度の向上や安全・安心な博物館運営を目指し，照明や空調等の施設設備の改修を行ったほか，利用者の利便性向上につながる情報システムの更新準備に取り組んだ。 ○ 魅力ある特別展やテーマ展示等の開催に加え，こうした多面的な情報発信・提供に取り組んだ結果，平成11年10月開館以来，入館者数300万人を12月に達成することができた。今後も企画や催しに工夫を凝らし，多くの県民に来館していただけるように努めていく。	3	各達成目標の取組においては，まだ解決すべき課題はあるものの，今年度の実績を踏まえ，「ほぼ達成されている」と評価した。今後も，「″み″たい博物館」を目指し，様々な博物館活動の情報提供・発信に努めていく。

※後期重点目標：◎　H30年度重点目標：△